令和6年度 第1回宝達志水町文化財保護審議会 議事録

日 時：令和5年5月28日（火） 午後3時00分～午後4時30分
場 所：宝達志水町埋蔵文化財センター 2階 研修室

出席者

委 員：村上委員、末森委員、山岸委員、秋田委員、大窪委員、金山委員
事務局：細江教育長、宮本課長、麦居主事

次 第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 議題
 - (1) 令和6年度文化財保護事業計画について
 - (2) 令和6年度能登文化財保護連絡協議会について
- 5 その他
 - (1) 事務連絡等
 - (2) 意見交換
- 6 閉会あいさつ（副会長）

議事録

（令和6年度文化財保護事業計画について）

秋 田：末森城跡の国指定は何を根拠、理由にしようとしているのか。

事務局：末森城跡は現在、昭和末・平成初期の調査により県指定史跡となっている。山頂（本丸）までの道なども含めて整備し、町内外に宣伝するとともに、貴重な遺跡を保存していくという考えがある。それを踏まえ、まず第一段階として、整備する前に何ができるか、何をどう残していくのか洗い出し、資料を作成して国史跡への指定を目指していく。整備は国指定後と考えている。まずは末森城跡についての史実や範囲を明らかにするため、専門家の人に見ていただき、どういった方針で進めていくかの方向性を決める検討委員会を立ち上げて進めていく予定である。

村 上：末森山は崩れやすい山で、若宮丸の発掘調査をした時にあえて木を残し

た。調査する際は崖崩れ・土砂崩れなどを考慮する必要がある。史跡としての価値は人に見てもらわないと伝わりにくい。見てもらおうとして道を整備したら史跡を壊す危険もある。すると、国指定どころの話ではなくなる。だが、史跡・山城としての構造を残すためにも、土砂崩れを防ぐための土止めをするなど工事は必要である。江戸時代の古絵図に載っている構造と現状とで様子が異なってきている。歩くための整備よりも、まずは遺構を崩さないための整備が必要である。これには歴史だけでなく(遺構保存に詳しい)土木工事関係者も委員に加えた方がよい。あわせて関係する文献の所在確認し、それをもって国指定にもっていく。国指定後に支障のない範囲で歩くための道を整備をして、人に見てもらえばよいと思う。

秋 田：末森城の歴史的価値は、小牧・長久手の戦いの一環として合戦が行われたところに価値があるのか、末森合戦の勝利が加賀藩の存続を確かなものにしたことにあるのか。

村 上：両方ともに意味がある。

事務局：末森城というと末森合戦のイメージが強いが、文献では上杉謙信が能登を攻めた折に「末守」にいたことが最初で、能登の「末の守り」としての拠点と位置づけることができると思う。その後、上杉ついで織田の家臣として羽咋郡一帯を支配した土肥氏の拠点という歴史もある。調査により、末森城跡の本質的価値は何かを明らかにしていく必要がある。

(その他)

村 上：空き家になったお宅を取り壊す前に、古いもの等の処分について相談を促すよう各区長に伝えてみてはどうか。

事務局：広報等で周知はしているが、直接区長に連絡することも検討する。